美術科学習指導案

日時　平成２１年　９月１８日（金）５校時
１３：１０〜１３：５５
場所　中野区立第二中学校　美術室
学級　第１学年Ｂ組　教諭　猪口　正和

１、題材名「グラデーションの平面構成」Ａ表現(1)･ア　(2)･ア　(3)･イ

２、題材の目標　了解

①形や色彩の組み合わせの面白さ、色彩の変化の美しさなどを感じ取り、作品から価値や心情を見出す。(1)･ア

②造形的に美しく構成する能力を高めるとともに、用具の特性を理解し、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現する力を養う。(2)･ア　(3)･イ

３、題材設定の理由

他の教科にはない美術科の教科性を考えると、一つには「色彩」を扱うということが挙げられると思う。「色彩」をテーマに一学年の年間指導計画を立てている。

５〜６月は、ドリッピングやマーブリング、フロッタージュ等のモダンテクニックで、細部に拘束されることなく色彩と戯れさせ、その中から形や模様を発見し、「不思議な生物」というテーマのもと、コラージュ作品を制作した。小学校からの流れもあってかそれらの作品は時に大胆で勢いのある表情を見せ、様々な技法を通じて色彩と接することによる、創ることへの前向きな姿勢を感じさせた。

今回は偶発的なパワーやある種の瞬発力を必要とする前回の題材から少しベクトルを変えて、色彩を意図的に用いるグラデーションの平面構成に取り組む。モダンテクニックで見せた色彩への前向きな姿勢を土台に、発想・技能両面において色彩をコントロールする場と~~したい~~。

数ある平面構成の中からグラデーションを選んだ理由は、仕上がったときの美しさを実感しやすいと考えるからだ。自分が美しいと感じる色の組み合わせは何か、それを生かす形はどういったものか、美しく変化させるためにはどのように混色したらよいか、試行錯誤させ、色彩の魅力を感じさ~~せたい~~。

また、例えば空や海の青さを美しいと感じるその背景には、色調がだんだん明るくなったり、深くなっていったりする＝グラデーションというある秩序があることを知り、身の回りの自然にある美を発見する契機に~~したい~~。

これまでの指導経験のなかで「途中まではうまくできるのだけど、色を塗ると失敗する…」という声をよく耳にした。絵の具で着彩する題材は２、３年にもあり、完成の達成感・成就感をより深く味合わせたいと考えるので、１学年の段階で絵の具の美しい用い方を身につけ、用具を表現に応じて意図的に用いることができる下地を作りたいという思いもある。

コメント [T1]: 了解。共通事項の内容でＡ表現(1)等の内容ではないと認識した。

コメント [T2]: これは第一次では指摘していない。「したい」「させたい」等は願望である。授業は出来るか否かでなく、授業者の意思ですすめる。よって「〜場とする」「感じさせる」「契機にする」授業者の意思を前面に出す。

４、生徒観（生徒の実態）　了解

自分のことは自分でやる習慣が身についており、自分の作品世界に集中する気風がクラス全体にある。絵がとても上手く、美術の時間が自己肯定の場になっている生徒もいる。

「美術への関心・意欲・態度」：もの作ることに対して前向きな生徒が多い。
その反面、深める直前で終わりにしてしまう場面もある。

「構想・発想の能力」　：「こうしたい」という欲求がきちんとあり、形にしていく

ことを厭わない。

「創造的な技能」　：偶発的な面白さを生み出すことも多いが、意図と目的をもって表現できる生徒はまだ少ない。

「鑑賞の能力」　：他者の作品の良さや意図を感じる力をもっている。

5、指導観　了解

・ものの美しさや良さの根底にある「美の秩序」を、実際の制作を通して感じさせる。
「美の秩序」とは美しいと感じるものに内在する形や色の組み立てのことである。グラデーションの他にも、シンメトリー、リピテーション、アクセントなどの美の秩序が知られている。今回、グラデーションの平面構成を通して、色彩が段階的に変化することにより生じる美しさを感じさせる。

・長短双方あるが、滲みにくく、乾くと耐水性になるアクリル絵の具を使うことにより、制作の進行をスムーズにする。失敗しても修正がたやすい。

・混色の過程を通して、混ぜる色の比率、塗る面に対して使用する絵の具の分量など、絵の具の扱いを体得させていく。

・ものの美しさや良さの根底にある「美の秩序」を、実際の制作を通して感じさせる。

コメント [T3]: 『美の秩序』は本題材の考え方の基本にある。
ぜひ、指導のどの場面でもアピールして欲しい。

6、評価規準

評価の観点	ア　美術への関心・意欲・態度	イ　構想・発想の能力	ウ　創造的な技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準 了解	主体的に平面構成の活動に取り組み、創造する喜びを味わう。	美しい配色・形を発想し、構想する。	アクリル絵の具を表現意図をふまえて、美しく正しく用いる。	作品の良さや美しさ・価値を、根拠をもって感じる。
学習における具体的な評価規準 （本時）	最後まで丁寧に美しく仕上げる。	①形や色彩の配色を工夫し、美しく構成する。 ②グラデーションが美しい変化をみせるように、色彩の変化を感じる	①アクリル絵の具や面相筆の特性を理解し、美しく着彩する。 ②グラデーションが美しい変化をみせるように、混色する。	本時は行わない。

コメント [T4]: これを規準にA規準を設定すること。A規準に付いては第一案の『コメント[T10]』を参照にすること
第2案では同じことだから、指摘しなかったが必要である。『規準(B)を達成できない生徒に対する支援』は本時の学習の評価の欄に入れる。

7、材料・用具

授業者：生徒個々に配布するもの：平面構成シート、ワークシート、台紙参考作品、アクリル
共用：水バケツ、新聞紙、ペーパーパレット、定規
授業者：両面テープ、絵の具セット、

生徒　：筆記用具、色鉛筆、アクリル絵の具セット、ペーパーパレット

8、学習指導計画（全12回）　了解

		学習活動	学習内容	評価
発想・構想	第1時	・「美の秩序」について説明を聞く。 ・上級生の参考作品を観る。 ・アイデアスケッチ	・「美」には規則や法則があることを知る。 ・課題を身近に感じ、モチベーションを高める。 ・形と色彩を組み立てる。	関　ア 発　イ①
	第2時	・アイデアスケッチ（続き）	・形と色彩を組み立てる。	
	第3時	・平面構成シートに枠線を引く ・枠線内にデザインを写す	・定規を正確に美しく用いる。	
	第4時	・枠線内にデザインを写す	・定規を正確に美しく用いる。	
展開	第5時 （本時） ～ 第10時	・授業者の実演を観る ・道具の配置 ・絵の具の混ぜ方 ・筆の使い方 ・水分の調整 ・デザインを着彩する	・用具の扱い方を視覚的に理解する。 ＊板書・実演の内容 ①道具の配置 ②ペーパーパレットの使い方 ③混色のこつ ④白を混ぜるこつ ⑤筆の使い方 ⑥水分の調整の仕方 ⑦色を塗る順番 ⑧修正の仕方 ・アクリル絵の具の美しい用い方を身に付ける。	関　ア 創　ウ①② 発　イ②
仕上げ	第11時	・作品を台紙に貼る。	・装幀することを通して作品をより美しく見せる。	関　ア
鑑賞	第12時	・自分、級友の作品を鑑賞する。	・色彩や形、色調の変化等から根拠をもって、自分や級友の作品の良さや美しさ、価値を感じる。	関　ア 鑑　エ

9、本時

（1）本時のねらい

・グラデーションが美しい変化をみせるように、色彩の変化を感じる。（発想と構想の能力）

・アクリル絵の具や面相筆の特性を理解し、美しく着彩する。（創造的な技能）

・グラデーションが美しい変化をみせるように、混色する。（創造的な技能）

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導内容　『支援』	評価
導入 10 分	・本時のねらいを把握する。 ・着彩についての授業者の実演を見る。	①道具の配置 ②ペーパーパレットの使い方 ③混色のこつ ④白を混ぜるこつ ⑤筆の使い方 ⑥水分の調整の仕方 ⑦色を塗る順番 ⑧修正の仕方 視覚を通して理解する。	
展開 30 分	・グラデーションになるように着彩する。 ＜予想される生徒の反応とその対応＞ ①水気が多すぎる →バケツの端、雑巾、新聞紙等で調整 ②彩度が高い色（黄色等）がなかなか明るくならない。 →「白と黄色を別々に出し」「白に」「黄色を」「ちょっとずつ」混ぜさせる。 ③筆先が整わない。 →パレットの空いている部分や新聞紙に筆を回しながら線を引かせる。	・色の明るさの変化を感じながら、白の量を調整する。 ・ムラなく塗れるように、水分量を調整する。	関・意・態 発想・構想 技能
まとめ	・片付ける。		

コメント [T5]: これはＢ規準を達成できない『規準を達成できない生徒への支援』を書く。
第２案の『コメント[T４]』を参照のこと
指導をすれば評価をする⇒評価をすれば規準(B)を達成出来ない生徒が出ることを予測する⇒達成できない生徒をどのように見つけ、どのように支援するかが必要。
だから『規準を達成できない生徒への支援』は指導内容が変化するごとに個々の生徒の活動を予測してかなり丁寧に設定する必要がある。

10、板書計画　了解

①道具の配置：水バケツ、パレットは利き手の方に置く。
②ペーパーパレットの使い方：端から絵の具を出していく。→使った部分だけ切るため。
③混色のこつ：縦方向、横方向に筆を回転させながら動かし、満遍なく混ぜる。
④白を混ぜるこつ：例　「白と黄色を別々に出し」「白に」「黄色を」「ちょっとずつ」混ぜる。
⑤筆の使い方：輪郭から塗っていく。
筆先が整わない。
→パレットの空いている部分や新聞紙に筆を回しながら線を引く。
⑥水分の調整の仕方：水バケツの端、新聞紙、雑巾などで余分な水分をふき取る。
⑦色を塗る順番：明るい色から暗い色へ。はみ出してしまった場合修正しやすい。
⑧修正の仕方：黄色、黄緑など隠蔽力の弱い色は、水分をほとんど加えず厚めに絵の具を塗る。

11、授業観察の視点　了解

・指導技術（授業展開）：導入時の説明内容や時間配分は適切であったか。
・「指導と評価の計画」の作成・改善：評価の観点と実際の指導は一体となっていたか。
・教材解釈・教材開発：参考作品・資料等の提示法、内容は適切であったか。
・統率力：授業の流れに沿っていない生徒はいなかったか。
・使命感・熱意・感性：どの生徒に対しても「良いものを作るんだ！」という気概をもって指導しているか。
・生徒理解：個々の進度に応じた指導ができていたか。